ぎょうだ 歴史系譜 ㉑④ 行田の歴史再発見 ⑰

忍町の誕生と発展

明治6年（1873）2月に忍城は廃城となりましたが、藩の元家臣たちは従来どおり城の周辺に住んでいました。江戸時代に町人たちが住んでいたところは、行田町と呼ばれていましたが、忍城とその周辺の武家地の名称をどうするかが問題となってきました。そこで、忍城を築城した成田氏にちなんで、成田町と称することとしました。明治7年（1874）、忍城内の諏訪曲輪に東照宮が移転され、翌8年（1875）には県内二番目の公園である成田公園（のちに忍公園と改称）が開設されました。

また、交通の面でも大きな開発がありました。行田町や成田町の人々が熊谷町へ向うためには、忍城内の屈折した狭い通路を通るか、大きく迂回するしかなく、城郭の堀や沼が交通の障害となっていました。そこで、明治20年（1887）に忍城内の中心部を東西に一直線に抜ける新道の開設願が、成田町の人々から県に提出されました。これが、現在の国道125号です。

明治22年（1889）、町村合併により成田町、行田町、佐間村が合併して忍町が誕生しました。人口は同23年（1890）の時点で7千780人、主要産業は足袋180万足、青縞15万反となっていて、このうち町の発展を担ったのは足袋産業でした。明治29年（1896）には、忍町や周辺の資産家たちが中心となって忍商業銀行が設立され、資金面から足袋産業を支えました。社会資本の整備も進み、明治33年（1900）には忍馬車鉄道が開業しました。明治43年（1910）には、行田電灯株式会社が営業を開始し、町内に電気が供給され、翌44年（1911）には電話が開通しました。

本町通り（昭和初期）

大正時代になると、人口の増加とともに市街地が町の外へ拡張されました。忍城の沼や堀の埋め立ても進み、特に内行田と二の丸の間にあった広大な忍沼が埋め立てられ、忍町尋常高等小学校が建設されました。農村部と旧城郭へ市街地が広がることにより、忍町は拡張を続けたのです。そして、昭和12年（1937）には持田村、長野村、星河村と合併し、戸数4千900余り、人口2万5千人余りとなり、県北有数の町として大きく発展していきました。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

童の銅人形

市役所前から栄橋までの国道125号沿いに並んでいる個性豊かな童の銅人形。行田の街並みになくてはならないものとして市民に親しまれています。

平成10年に行われた国道125号の工事に併せて設置された銅人形は、銅板造形作家の赤川政由さんが制作したもので、羽子板や竹馬といった昔ながらの遊びをしている童など、39基の童たちが思い思いのポーズをとって道行く人たちの心を和ませているよ。散歩をしながら、お気に入りの人形を見つけるのもいいかもしれませんね。

今月の表紙

12月10日、総合福祉会館「やすらぎの里」の中庭で、三世代交流もちつき大会が行われました。

もちつきを通して祖父母、父母、そして子どもの三世代の交流を密にするだけでなく、参加した家族同士の交流も図ることを目的とした催しに、45人が参加。この日は子供たちにも、もちつきを楽しんでもらおうと、子ども用のきねと臼も用意されました。もちつきに挑戦した子供たちは、楽しそうに「ぺったん、ぺったん」と小気味よい音を響かせていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361-8601 行田市本丸2番5号　TEL 556-1111　FAX 550-2116
ホームページ http://www.city.gyoda.lg.jp　携帯サイト http://www.city.gyoda.lg.jp/mobile/index.html